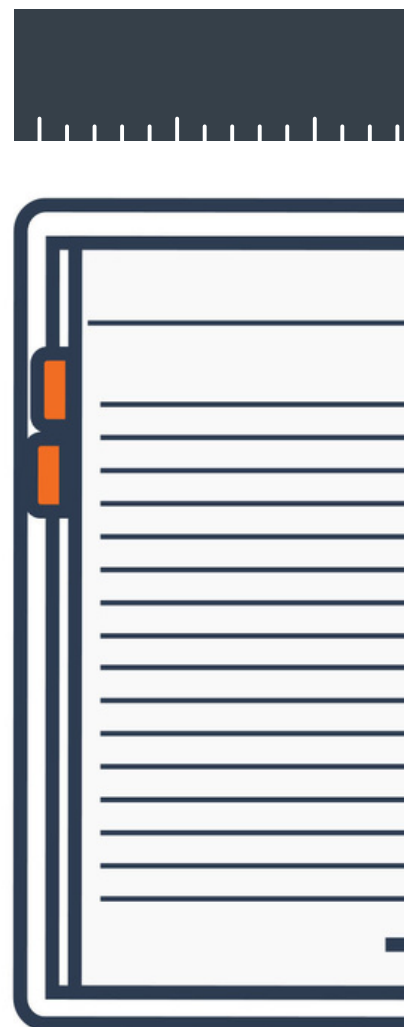


北海道地方ESD活動 支援センター 2021年度レポート



北海道地方
ESD活動支援センター
ESD Resource Center of Hokkaido, Japan



ESD（Education for Sustainable Development、持続可能な開発のための教育）は、持続可能な未来の創り手を育む学習・教育活動として、学習指導要領に盛り込まれています。また、ESDはSDGsの達成に不可欠な実施手段にも位置付けられており、2019年には、新たな国際的な枠組みである「持続可能な開発のための教育：SDGs達成に向けて（SDGs for 2030）」が採択されました。

ESD活動支援センターは、ESDを推進する全国のネットワークを構築するため、環境省と文部科学省の共同提案により設置されました。地方ESD活動支援センターは2017年度に、全国8か所の地方環境パートナーシップオフィス（地方EPO）に開設され、学校教育や社会教育におけるESDを推進しています。

地方ESD活動 支援センター

地方ESD活動支援センター（地方センター）は、地域のESD活動を支援・推進する役割を担う組織や団体である「地域ESD拠点」等との連携のもとに、「ESD推進ネットワーク」の広域的なハブ機能を果たしています。

【主な機能】

- 1 ESD活動を支援する情報共有機能
- 2 現場のニーズを反映したESD活動の支援機能
- 3 ESD活動のネットワーク形成機能
- 4 人材育成機能

地域ESD拠点

地域ESD活動
推進拠点

学校教育・社会教育の現場では、様々な主体が地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組んでいます。そうした現場のESDを支援・推進する組織・団体等の皆さまに「地域ESD拠点」として登録をいただいています。

地域ESD拠点は、地方センターのパートナーとして、他の地域ESD拠点とも連携し、各地域・各分野で取り組まれるESDを様々な形で支援することで、「ESD推進ネットワーク」において中核的な役割を果たします。登録をお考えの皆さまは、ぜひ北海道地方センターにご相談ください。



- 1 北海道教育大学釧路校ESD推進センター（釧路市）
- 2 北海道羅臼町教育委員会（羅臼町）
- 3 国立大雪青少年交流の家（美瑛町）
- 4 NPO法人旭川NPOサポートセンター（旭川市）
- 5 一般財団法人北海道国際交流センター（函館市）
- 6 ネイパル深川（深川市）
- 7 ネイパル北見（北見市）
- 8 ネイパル森（森町）
- 9 ネイパル厚岸（厚岸町）



北海道内の地域ESD拠点
(2022年3月現在・登録順)



- 10 ネイパル砂川（砂川市）
- 11 三笠ジオパーク（三笠市）
- 12 ネイパル足寄（足寄町）
- 13 白滝ジオパーク（遠軽町）
- 14 国立日高青少年自然の家（日高町）
- 15 NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト（浜中町）
- 16 NPO法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶ（登別市）
- 17 NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク（豊富町）
- 18 NPO法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト（余市町）
- 19 北海道名寄産業高等学校名農キャンパス（名寄市）



ESD推進ネットワーク 北海道地方フォーラム

持続可能な
地域づくりと
教育旅行

国際的な意識の高まりや学習指導要領の改訂に伴い、国内においても、教育旅行にSDGsの要素を組み込む学校が増えています。2021年度に初開催した、ESD推進ネットワーク北海道地方フォーラムのテーマは「持続可能な地域づくりと教育旅行」。持続可能なまちづくりを進めてきたニセコ町において、地域づくりと教育旅行がどのように連動しているのかについて、地域ESD拠点の皆さんを交え、SDGs未来都市の事例を学び、道内での推進方策を考えました。

〔開催日時〕2022年1月24日（月）14:00～16:30

〔開催方法〕オンライン（Zoom）〔参加者数〕53人

〔プログラム〕



1. 開会、趣旨説明

2. 基調報告「SDGs未来都市ニセコ町のいまと教育旅行」

- ・ニセコ町企画環境課 SDGs担当（地域おこし協力隊）寺地高志氏
- ・株式会社ニセコリゾート観光協会 マネージャー 小野寺美佳氏

3. パネルディスカッション

「どのように持続可能な地域づくりと教育旅行をつなげるか」

- ・寺地 高志氏 ・小野寺 美佳氏
- ・三笠ジオパーク推進協議会 事務局長 下村 圭氏
- ・NPO法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト 理事長 坂本純科氏

4. 参加者による意見交流 ※道内大学生の対話支援

ニセコ町は、これまで進めてきた持続可能な地域づくりの取り組みを、教育旅行に活用しています。地域ESD拠点である「三笠ジオパーク」（三笠市）と「NPO法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト」（余市町）は、それぞれ行政と民間団体を中心となって教育旅行を受け入れることで、地域の持続可能性の向上に取り組んでいます。取り組み中心主体の立場や地域の状況の異なる三者で「SDGsの本質的な理解を促す体験や交流の重要性」「『観光』と『学習』の二側面から、地域の課題を浮かび上がらせ、資源を磨く『教育旅行』の可能性」について意見交換を行いました。道内外のガイドや企業等からも多くの参加がありました。

地域ESD拠点と
の情報共有やプ
ロジェクト実施
等の協力・連携

北海道地方センターは、複数の地域ESD拠点が関わる「北海道アウトドアフォーラム2021」の企画に参画しました。主に全体のふりかえりの企画協力のほか、海洋プラスチック汚染に係るワークショップを担当しました。

〔開催日時〕2021年11月30日（火）～12月2日（木）

〔開催場所〕1日目 オンライン（YouTube）

2、3日目 国立日高青少年自然の家（日高町）

〔参加者数〕126人（1日目のみ 36人、3日間通し 90人）

〔主催〕国立日高青少年自然の家

〔運営〕国立日高青少年自然の家

北海道アウトドアフォーラム専門委員会

北海道アウトドアフォーラム2021実行委員会

北海道アウトドアフォーラムから派生
した北海道アウトドアネットワーク

HON HOKKAIDO
OUTDOOR NETWORK



北海道地方センターは、環境、社会及び経済をつなぎ、持続可能な社会の担い手を育む観点から、引き続き「北海道アウトドアフォーラム」及び「北海道アウトドアネットワーク」に協力していきます。

気候変動教育 連続勉強会



●脱炭素社会の実現に不可欠な「環境教育」

脱炭素社会の実現には、個人のライフスタイルだけではなく、社会と経済の仕組みそのものを変える必要があります。そのためには、多くの人々が気候対策の必要性や可能性を理解し、変化を前向きに受け入れていくことが求められます。

●「気候変動教育」の体系化と普及を目指して

学校教育においても、児童・生徒一人ひとりが「持続可能な社会の創り手」になるよう、環境教育の充実が期待されています。しかし国内の学校では、環境教育は教科として実施されておらず、気候変動問題を体系的に学ぶ機会は限られます。そこで北海道地方センターでは、国内の気候変動教育の本格的な体系化や地域での普及を目指し、関心のある皆さんと情報共有と対話を行う連続勉強会を開催しました。令和3年度は6回の勉強会を実施しました。

●連続勉強会の内容 ※開催方法はいずれもオンライン（Zoom）

第1回	【日時】2021年7月14日（水）13:30～15:00 【参加者数】91人 【テーマ】地域におけるこれからの気候変動教育を考える 【講師】高橋敬子氏（立教大学社会学部特定課題研究員・ESD研究所特任研究員）
第2回	【日時】2021年7月26日（月）16:00～17:30 【参加者数】98人 【テーマ】気候変動教育のエッセンス国際的に見た日本の課題 【講師】永田佳之氏（聖心女子大学現代教養学部教育学科教授）
第3回	【日時】2021年9月7日（火）16:00～17:30 【参加者数】69人 【テーマ】気候変動の地元学による共学と共創 【講師】白井信雄氏（山陽学園大学地域マネジメント学部教授）
第4回	【日時】2021年9月29日（水）16:00～17:30 【参加者数】70人 【テーマ】気候変動教育のエッセンス国際的に見た日本の課題 【講師】水上聡子氏（アルマス・バイオコスモス研究所代表） 福岡真理子氏（一般社団法人あきた地球環境会議事務局長）
第5回	【日時】2021年10月21日（木）16:00～17:30 【参加者数】57人 【テーマ】学校教育とNPOの連携による学習の仕組みづくり 【講師】豊田陽介氏（特定非営利活動法人気候ネットワーク上席研究員） 服部乃利子氏（特定非営利活動法人アースライフネットワーク専務理事）
第6回	【日時】2022年2月25日（金）18:00～19:30 【参加者数】56人 【テーマ】学校教育におけるESDの実施状況と教員の意識 －中学校、高等学校に対する全国調査2020の結果から－ 【講師】谷田川ルミ氏（芝浦工業大学工学部教授） 栗島英明氏（芝浦工業大学建築学部建築学科教授）

ポイントを押さえてとても具体的に教えてくださり大変参考になりました。子どもだけでなく家族や企業、地域まで広げることが大切、というところにも感銘を受けました。（第5回アンケートから）



北海道メジャーグループ・プロジェクト



10 groups

北海道での 構成グループ

- ・女性
- ・企業
- ・研究者
- ・先住民族
- ・NPO/NGO
- ・地域コミュニティ
- ・ユース
- ・協同組合
- ・農民
- ・障がい者

●国連メジャーグループとは

国連は、持続可能な社会づくりを達成するために、国連の動きにすべての市民が参加できるように、9つのグループからなる「国連メジャーグループ」を設けています。1992年の地球サミットで採択された「アジェンダ21」による「女性」「子ども・若者」「先住民」「NPO/NGO」「地方自治体」「労働者・労働組合」「ビジネス・産業」「科学技術コミュニティ」「農業従事者」の9つのグループです。近年では、「その他の利害関係者」として「地域コミュニティ」「ボランティアと財団」「移民と家族」「お年寄り」と障がい者が加わっています。

●北海道でも対話を深めよう！

北海道における持続可能な社会づくりにおいても「誰一人取り残さない」ことを大切にする。これを共通の価値として、北海道地方センターでは、2020年度より様々なステークホルダーと集い、各グループでの対話を深める「北海道メジャーグループ・プロジェクト」（主幹団体：北海道地方ESD活動支援センター、NPO法人さっぽろ自由学校「遊」）を展開しています。

●グループミーティングと全体共有

プロジェクト2021では、キックオフ・ミーティングを実施した後、各グループでの対話を行い、全体ミーティングで共有を行いました。北海道地方センターでは、ユースグループミーティングを担当するとともに、主幹団体として他のグループの対話をサポートしました。

オンライン
(Zoom)

キックオフ・ミーティング

【日時】2021年9月12日（日）14:00～17:00

【参加者数】33人

【内容】各グループの取り組み紹介とシナリオプランニング勉強会

ユースグループ・ミーティング

【日時・内容】 ※時間はいずれも 19:00～20:30

第1回 2021年10月21日（木）考えよう私たちの時代のこと

第2回 2021年10月28日（木）SDGS（2030年）のその先、大丈夫そ？

第3回 2021年11月4日（木）未来はいくつも存在する、シナリオを描こう

第4回 2021年11月11日（木）確実なこと、不確実なこと、
これからの時代の学び方って？

第5回 2021年11月19日（金）再び私たちのシナリオを描く

【参加者数】12人

【内容】シナリオプランニングの手法を用いて、「私たちはどのような未来を作りたいのか」「それを実現できる目途は立っているか」「そのギャップを埋めるためにはどのような行動が必要か」の三つの問いに係る対話を実施

全体ミーティング

【日時】2022年3月13日（日）13:30～16:15

【参加者数】36人

【内容】グループミーティング報告と意見交換

ESDアドバイザー派遣制度



北海道地方センターでは、道内の学校教育・社会教育における ESD/SDGs の導入や実践、現場の課題解決を支援するため「ESDアドバイザー」を派遣しています。アドバイザーへの謝金及び旅費は北海道地方センターが負担します。オンラインでのご利用も可能です。

●こんなお悩みはありませんか？

「主体的・対話的で深い学び」は、どのようにすれば実現できるのか？ SDGsを学校や地域の施設での学習に取り入れるには？ 施設の事業計画と ESD/SDGs との関連は？ … 学校教育・社会教育に関係する皆さんの、SDGs の教育分野への具体的な取り入れ方等のお悩みに対応します。

●登録アドバイザー ※五十音順、所属は2021年6月現在



大津和子さん

北海道教育大学名誉教授

キーワード 主体的・対話的で深い学び / SDGs / 国際理解教育



金澤裕司さん

前 羅臼町教育委員会 自然環境教育主幹

キーワード 自然と人間 / 地域の持続的発展 / 総合的な学習による学力向上



松田剛史さん

藤女子大学人間生活学部人間生活学科 准教授

キーワード SDGs / カリキュラム・マネジメント / PBL / 教育課程



●ご利用機関の声

- 大変分かりやすくお話しいただき、自分事として捉えることができました。
- 新しい学習内容を作るのではなく、国際的な視点を持ち、様々な分野の横断的な学習を実践することが重要だと気付きました。「持続可能な世界を創る」ことを意識していきたいと思います。

●派遣制度ご利用の条件

1. 派遣の目的が道内におけるESDの導入・実践・課題解決であること
2. 主催者が非営利団体（行政機関を含む）であること
3. 助言や支援の対象がESDの実践者または関係者であること
4. 宗教・政治活動が目的ではないこと

●2021年度 派遣実践 ※申請主体 - 派遣方法 - テーマ

- ・ 国立大雪青少年交流の家 - オンライン及び現地（美瑛町） - SDGsを組み入れた自然体験プログラムの構築
- ・ 中札内村立上札内小学校 - 現地（中札内村） - ESD/SDGsの理論と実践
- ・ 赤井川村立赤井川小学校 - オンライン - ESD/SDGsの理論と実践、教育課程への位置付け
- ・ JICA北海道センター（帯広） - オンライン - 学校や地域との連携方法



北海道地方ESD活動支援センター
（環境省北海道環境パートナーシップオフィス内）

〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11 大五ビル7階

TEL 011-596-0921 FAX 011-596-0931

URL <https://hokkaido.esdcenter.jp>

発行 2022.3.25

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS